



Kishu Kushimoto MURYO-JI Temple

円山応挙作〈無量寺再  
建祝盃〉朱漆塗金蒔絵/  
1786(天明6)年



臨済宗白隠下の禅僧、文保愚海和尚が入院し、大津波から79年後の1786(天明6)年に苦難の末、現在の場所に本堂が再建された。  
愚海和尚は、京にある本山東福寺に籍を置いて修行していた間に、若き日の応挙と親交があったようだ。江戸時代後期、紀伊国全体に関する情報を記載した『紀伊国名所図会』には、「蓋し愚海若かりし頃芦雪の師円山応挙と親

# 本

州最南端、紀南地域に位置する、和歌山県串本町。紀伊山地を背に、潮岬が太平洋に向かって伸びる比較的温暖で穏やかな土地だ。この地は、伊藤若冲らとともに「奇想の画家」と呼ばれる長沢芦雪がかつて絵を描いた場所。その足跡を伝えるような名品が串本町には今も大切に残されている。代表的なものは錦江山無量寺にある重要文化財『虎図』(38頁)と『龍図』(44頁)。美術ファンなら誰しも目にしたことがあるであろう芦雪作品と、その師・円山応挙作品が収蔵されている人呼んで「芦雪寺」だ。芦雪が描いた襖絵など名品の数々を観るために、全国各地からこの場所を訪れる人が後を絶たない名刹を紹介しよう。  
無量寺とは、虎関禅師が開山した臨済宗東福寺派の別格寺院。元々は、現在地から少し離れた入江の地区にあったようだ。しかし、1707(宝永4)年に起きた宝永地震による大津波にのまれて全壊。その後、寺の再建のために、



円山応挙筆〈波上群仙図〉紙本墨画／襖6面 壁画2面／1786(天明6)年／重要文化財